

編集後記

●メッセージは大垣眞一郎（独）国立環境研究所理事長にお願いしました。大垣氏は、卓越した知見を背景に外交に関するソフトパワーへの展開を引用しつつ、下水道を取り巻く国際展開が激しく動中、改めて「技術」の有用性を大きな視野で見つめ直す必要がある、と結んでいます。

●エンジニアングレポートは「下水道への膜処理技術導入のための調査研究」「シールド発進立坑用地の省面積システム改訂に関する研究」についての研究報告です。前者は膜分離活性汚泥法をはじめとする膜処理技術に関する情報や最新知見を整理。技術導入にあたって検討すべき事項についてまとめました。後者は2004年に発刊された「シールド発進立坑用地の省面積システム技術マニュアル」の内容を見直し、設計事例の追加などを含めた「改訂版」について詳細に解説しました。

●シリーズ第2回となるワールドワイド下水道は、先進的に海外事業に取り組んでいる二つの企業にその独自技術や工法などをはじめ、計画・課題解決などをまとめていただきました。また、今回は「GCUS・海外ビジネス展開共同研究」について、その背景や研究内容について取り上げました。

●新研究テーマは、ストックマネジメントの観点から注目が高まりつつある合成木材製覆蓋更新に関する共同研究の概要や研究の内容について触れると

もに、導入手法の整理が求められている下水処理場へのバイオマス受入に関する共同研究についての知見を取りまとめました。

●トピックスでは、長崎市の西部処理場内で進められている亜臨界水を利用した汚泥処理システムを取り上げました。同技術は臨界点より温度・圧力の低い熱水「亜臨界水」の加水分解作用により、汚泥をエネルギーに転換し、脱水汚泥を従来の1/5にするという画期的なものです。汚泥の減容化、エネルギー化などの課題解決に結びつく下水道界注目の取り組みについて解説します。

●インプット・アウトプットはアジア最大の国際的な水のイベント「シンガポール国際水週間（SIMM2009）」、中国・ハルビンで開かれたIWA主催の「第12回汚泥会議」の参加者によるレポートを掲載。水に対する世界的な技術情報の発信や発展する中国の経済事情などが感じられます。

●地球温暖化防止の観点から、省エネルギーへのさらなる取り組みが求められています。ユーザーレポートでは、およそ10年前に町田市上下水道局に導入されたメンブレンパネル式散気装置を取り上げました。水処理の能力を落とすことなく電力量の削減を図ることのできる同装置についてまとめました。

（編集員一同）

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。

写真のお子さんは、原田一郎国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官付流域下水道計画調整官の長女有理（ゆり）ちゃん（10歳）、長男英紀（ひでのり）くん（7歳）です。

この写真は、10月中旬の休日にご自宅近くの公園で撮影したものです。鉄道とビルに挟まれた小さな公園ですが、水辺が充実しており、大人から子供までいつもにぎわっているそうです。写真では、元気いっぱい弟さんとしっかり者のお姉さんのようすが手に取るように伺えます。

有理ちゃんは、現在ピアノのコンクールに向け、毎日のように練習に励んでいます。一方、弟の英紀くんはゲームソフトのドラゴンクエストにはまっており、攻略本で猛勉強(?)中です。

ご姉弟の仲の良さとそれを見守る両親の愛情に、秋のやわらかな日差しもほほえんでいるようです。

題 字

（財）下水道新技術推進機構会長・中村満義
（鹿島建設株式会社代表取締役社長、（社）日本
土木工業協会会長）の揮毫によるものです。

下水道機構情報

Vol. 3 No. 10
2009年11月〈秋冬号〉

平成21年11月20日発行 発行者 中 村 満 義
編集者 石 川 忠 男
企画者 江 藤 隆

編集委員：中里 卓治／神原 浩／高瀬 行廣／
田之倉 誠／齊藤 実／御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512